

(2) 合乳細菌数検査成績

良質な生乳を生産することによる酪農経営の安定化および消費の拡大を図るため、衛生的に優れた品質の生乳確保を期して細菌数検査を実施しました。

ア. 方 法

(ア) 試 料

生乳取引の行われる工場において、C SおよびB Cから搬入される合乳を対象としました。

(イ) 検査回数

旬間1回以上

(ウ) 試料採取箇所および方法

C SおよびB Cを経由した試料はタンクローリーから採取しました。

(エ) 検査方法

蛍光光学式細菌数測定機により検査しました。

イ. 結 果

表4に月別および地区別の生菌数検査法による細菌数検査成績を示し、表5に地区別成績の内訳を示しました。検査延検体数は70,051検体で、対象検査乳量は756,679.1tでした。

細菌数10万/mlを超えるものが26台、242.9t（前年度25台、240.0t）でした。それより低いレベルの3.4万/ml以下の比率は99.7%で前年度と同ポイント、1.4万/ml以下では98.4%で前年度より0.1ポイント減少しました。

月別1.4万/ml以下の比率変動では最高値は4月の99.0%、最低値は7月の97.6%で、その範囲は1.4ポイントであり安定して高いレベルを維持していました。

図2には細菌数3.4万/ml以下および1.4万/ml以下の月別変動を示しました。